

(令和元年 8 月試験研究業務月報)

試験研究課題：アズキ機械化栽培での難防除雑草の総合防除体系の確立
(平成 31 年度「豆類助成金」)

研 究

アズキ栽培ほ場での外来ホオズキ類^{※1}の防除体系の検討

京都府内のアズキ栽培ほ場では、防除が困難な外来ホオズキ類による雑草害が約 10 年前から広がっています。外来ホオズキ類は、生育が旺盛で大型化し、果実や茎葉の水分が多く、アズキの生育抑制や汚粒の発生など、収量及び品質が低下することから、生産現場では効果的な防除体系の確立が求められています。

そこで、当センターでは、外来ホオズキ類の防除体系に組み合わせる技術として、機械除草や除草剤の条間散布^{※2}の効果について調査しています。

8 月 9 日に機械除草、13 日に除草剤の条間散布を行いました。今後は、それぞれの技術ごとに雑草の発生量や収量の調査を行い、技術の効果を確認し、防除体系の構築を行います。

※1 外来ホオズキ類 : 外国から侵入したナス科ホオズキ属の雑草で、実の色は彩やかでなく、利用価値がないが増殖力が強い。

※2 除草剤の条間散布 : アズキが生えている列と列の間(条間)に除草剤を散布する方法。



アズキが生えている列の間に機械を通し、雑草を除草している



アズキが生えていない条間のみに除草剤を散布し、除草をおこなう